

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500011		
法人名	社会福祉法人 清心会		
事業所名	グループホーム 夢の郷		
所在地	岐阜県安八郡神戸町丈六道村西59		
自己評価作成日	平成26年9月6日	評価結果市町村受理日	平成26年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192500011-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成26年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の介護理念として、「私たちがもうひとつの家族です」を大前提に地域との関係をふまえた新しい介護理念 「私たちは、地域の方々とのふれあいを大切にし、常にその人らしい生活を可能なかぎり支援します。」を掲げ、個々の生活スタイルを尊重し、外出支援など心がけています。また年1回家族会を開催し家族同士の交流も図り、利用者・家族の思いなど話す機会を設けています。また、家庭的な雰囲気を出す為に陶器の器を使用し、より家庭での生活に近づけ安心して暮らして頂けるよう支援していきます。利用者さまには好評である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の趣味や生活歴を把握し、個々の出来る力を活かす取り組みをしている。毎日の生活の中の掃除・食事の盛り付けや後片付け・洗濯物たたみなど利用者の得意なことややりたいことを一緒に行っている。また、利用者一人ひとりにかかわる時の会話を大切に、思いや意向の把握に努めサービスに繋げている。運営推進会議では、避難訓練に地域の消防団の参加を得られるよう取り計らってもらするなど、災害時の地域住民との協力体制づくりの理解が得られた。管理者は、職員が意見や提案を言いやすい関係を築き、研修会で得た情報を基に、職員の提案を取り入れている。また、修繕や必要な物品の購入などの提案や要望には、職員と一緒に検討して、改善できるよう母体法人に伝え、働きやすい環境を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、夜勤者との申し送り時に法人としての理念・行動指針に加え8月より地域密着型のサービスの意義をふまえた介護理念を作り唱和している。唱和することにより浸透をはかり、全員の意識付けをしている。	管理者・職員は、朝の申し送り時に母体法人の理念と行動指針を唱和し、意識づけをしている。また、今年、新たに地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を職員間で作成し実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど地区の民生委員、区長、老人会長さんなど招いて交流を図っている。また広報・チラシなどで地域の行事などの情報があると、積極的に参加する様になっている。	地域の広報で夏祭りや文化祭、神社のお祭りなど行事の情報を得て、利用者と一緒に積極的に参加している。地域の方にも事業所行事に参加してもらっている。中学校の訪問や各種団体のボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に認知症の話題にはなるが、地域の方からの相談ごとあまりない。中学生の職場体験などを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、施設の活動状況、取り組みなどを報告し意見・質問など頂いている。利用者へのサービス・行政の指針なども質問するなどして参考になっている。	運営推進会議では、事業所の現状や事故等の報告、感染症の予防や地域行事への参加等について話し合っている。民生委員からの提案で避難訓練に消防団に参加してもらい、地域との協力も図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の場において、地域包括支援センターに実情を伝え助言を頂いている。また認定更新の場合などケアマネに利用者の暮らしぶりなど細かく伝え連携を深めている。	市町村担当者に現状を報告し運営上の問題点などを尋ね、協力関係を築くように努めている。利用上の問題についても相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での身体拘束に関する研修にスタッフ全員が参加できるようにして、職員の共有意識を図っている。	母体法人での身体拘束や虐待防止についての研修会に全職員が参加し、身体拘束をしないケアを確認している。声かけや日常のさりげない行為であっても、言葉の拘束や虐待に繋がらないかと、会議で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設の事例を例にあげるなど、身体的虐待のみにとどまらず、言葉での虐待もあるなど職員に周知するようにしている。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設にての研修会に参加した職員が、各部署にて勉強会を開くなどして周知するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の相談にも、不安な事柄に丁寧にお話を伺うなどしてトラブルのない様十分な説明をし契約に繋げている。契約時には十分な説明をし、サイン印鑑を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時、家族会などにおいて気軽に意見を言って頂けるようにしている。階段の踊り場に他者から見られない場所に意見箱を設置している。	家族の訪問時や毎月の受診時などに声掛けを多くし、意見や要望などを聞いている。家族会や利用者、家族との会話から意見を知る努力はしているが、意見があまりない。	利用者・家族と話しやすい関係を活かして、さらに家族等からの意見をサービスに反映させていく取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング、毎日の午後の空いた時間などに提案・意見などを聞くようにしている。	管理者は日頃から職員の要望や提案などを聞いている。ミーティングでも勤務体制や業務の見直しについての意見や提案を出し合う機会を設けている。職員からの意見で、テラスを修繕したり、入浴介助に必要な備品を購入したりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より、社員・準社員のみ年2回、人事評価を導入し資質の向上と意欲、処遇の改善に繋げている。個々の給料にも反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月法人内においてスキルアップ研修が行われており、全員参加が義務付けられている。理解度によって再研修などもある。また外部からの講師にての研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修・スキルアップ研修にも希望があれば、受講するなど、同業者との交流を図り意見交換などもする機会がある。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において本人の意向、要望、趣味、生活歴などの把握をするなど、ご本人の意向に沿ったサービスの提供と安心に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談にてご家族の悩み、これまでの御苦労など親身になって受け止め共感し、こちらでは何が出来るのかなど一緒に考え、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急な対応が必要な場合はグループ内の事業所で出来る事はケアマネ、相談員などに相談をするなど連携を密にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日生活する上で必要な家事が多々あり、あくまで利用者が主体であることを職員は意識しながら出来ないこともどのようにしたら関わって頂けるかを個々に応じて考えている。職員はあくまで黒子であることを常に意識していきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などご本人の様子など細かく伝えながら、施設で生活しておられても家族との関わりが途絶えないように出来る限り面会して頂けるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診は入居前からのかかり付けの医院に受診されている方もあり、安心感もある。地域の神社、近くの喫茶店などにも出かけることもあり、たまに知り合いに会うこともある。	馴染みの美容院や墓参りに出掛けられるよう、家族の協力を働きかけている。神社の祭りや文化祭など地域行事に積極的に参加して、知人と出会う機会を作り、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルなどは個々に話を聞いて職員が調整役となってしこりが残らないようにしているが、かなり難問である。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られる時などは、面談時口頭はもとより、状況・嗜好・好みなど詳しく記載した情報提供書を提供し、今後の生活が継続できるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々の関わりの中で本人本位を意識している。理解力低下の為意向がうかがえない方は、表情・しぐさ等から丁寧に観察し、利用者の思いを尊重するよう努めている。	利用者の趣味や好きなことを話しかけて、思いや希望を意識して聞いている。困難な利用者には、目線やしぐさ、表情を見ながら気分が良い時に尋ねたりして、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やご家族様等の情報をもとに、日々の関わり・会話を通し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの観察・気づきをもとに介護記録・申し送り等に詳細に記録し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標の達成度評価(モニタリング)をスタッフ全員に評価してもらい、本人・家族・主治医にも意見を聞き、毎月のミーティングで話し合い、介護計画に反映している。	全職員がモニタリングをして、結果をケアマネジャーに伝えミーティングで話し合っている。本人・家族、主治医からの意見を踏まえて、介護計画を作成している。利用者の状態が変化した場合にも、家族、主治医の意見を取り入れて、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って実践・記録にとどめている。申し送り等で丁寧に口頭で説明し、スタッフ間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の声を大事に日々柔軟に取り組んでいる。利用者の「楽しかった・ありがとう」笑顔が見たい為。緊急時等、家族様の対応がとれない時は、柔軟に付き添い見守りしている。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭礼・行事には積極的に参加している。買い物ができる方は、隣のスーパーに毎日とっていいほど買い物に出かけられ楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に入居後も家族様の協力で受診されている。直接主治医に事業所から疑問点等尋ねたり・支持を仰いだりと、体調の変化時適切な対応が来ている。	家族の付き添いを基本として、入居前からのかかりつけ医を受診している。家族の体調変化や高齢化に伴い協力医に変更する利用者もある。急変時は、かかりつけ医の指示のもと対応し、職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスには看護師が配置されており、日常的に利用者の報告・助言を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが同行し、急変時の状況・状態を伝え介護サマリーを提供。入院時は、様子見に伺い現況把握に努めている。退院時は、担当者会議・看護サマリー等情報提供を求めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では看取りの体制が出来ていない為、本人家族様の意向を伺いながら、早めの入院・当法人特養への入所を提案している。ほとんどの利用者が当法人特養の申し込みをされている。契約時に、看取りはしていない旨を伝えている。	契約時に事業所の方針を説明し、母体法人の特別養護老人ホームの申し込みを勧めている。利用者の状態について常に家族と連絡を取り合い、面会をお願いすることもある。入院や転所の時は、本人・家族に相談しながら、思いを大切に、かかりつけ医と相談し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救命救急の講習(AED・心肺蘇生)を行い、いざという時に実践できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災地震等を想定して、消防署指導のもと避難訓練を実施している。地区の消防団・民生委員・老人会長様にも参加を依頼し協力していただいている。め	同一建物のデイサービスと一緒に避難訓練を行い、夜間想定訓練は事業所独自で行っている。民生委員の提案から地域の消防団の参加も得て、地域住民との協力体制の取り組みもしている。	

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	視線を合わせ優しい笑顔でゆっくりと話しかけています。居室のドアをノックして「失礼します」と声かけしてから訪室している。トイレ・着替え等プライバシーに十分考慮が必要時は人目・声のトーンに注意し対応している。	話しかける時や名前の呼ぶ時、居室に入る時など、利用者を尊重した姿勢で対応するように心がけている。管理者は自らが手本となり、職員が利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から本人本位を意識して、スタッフは丁寧に傾聴・受容に心がけ、思い・要望等伺っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康状態を考慮し、一人一人の希望に沿って支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の出来る事・出来ないことをスタッフが把握し、汚れ・しみがあれば尊厳を傷つけないよう声掛けし着替えていただいたり、櫛・化粧水を準備をすれば手慣れた手つきで整容される。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	BGMを流し落ち着いた雰囲気ですべてを摂っていただいています。朝食・夕食(昼食はデイサービスと一緒に)は、陶器の器を使用。盛り付け・配膳・後片付けをスタッフと一緒にしています。	食事は盛り付け・後片付け・おやつ作りなどを利用者と一緒にしている。静かに音楽を聴きながら会話を楽しみ、利用者のペースで食事をしている。職員は陶器の器を持ち寄って、家庭的な雰囲気も大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士・厨房業者の栄養士で献立をたてている。毎月1回、給食会議で相談・アドバイスを得られる。一人一人に合った食事形態で提供。水分は、1日1000ccを目標に好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアしていただいています。一人で出来ない方は介助に入ります。夜間ポリドントでの洗浄施行。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ対応の方はいません。布ショーツ対応に積極的に取り組んでいる。排泄パターンを詳細に記録把握しトイレ誘導を行っています。	個々の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を行い自立に向けた排泄支援に努めている。夜間もトイレの場所がわかるよう表示を工夫したり、個別に把握した時間に声掛けしたりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取(1日1000cc)は摂っていただく。便秘時は、牛乳・ヨーグルトを勧め、下剤の服用は減ってきています。あまり動かせない方は、散歩・家事等積極的に声掛けしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿うよう出来る限り支援している。入浴をためらう方には、デイサービスの大浴場で気分転換を図っていただき、入浴を楽しんで頂きます。	人手の多い午前中に入浴を行ない、毎日入浴する利用者もいる。入浴を好まない方には、順番や誘い方を工夫したり、デイサービスの大浴場を使用したりして入浴を楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせて、午前・午後休憩時間を取っている。ボランティアが訪問されていても、本人本位を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬情書は、スタッフが周知している。症状の変化があるときは、即、ドクターに連絡し指示を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人本位を尊重し、それぞれが楽しんで取り組める役割を担っていただいています。利用者からスタッフに「私やるからあんた他の事やって」と、喜々とした言葉が良く飛び交っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調等考慮し、ドライブ・喫茶店・買い物・近所の散歩・地域の行事等積極的に参加している。家族に呼びかけて絆を深める支援をしている。	散歩や買い物・喫茶店へ出掛けるなど利用者の希望に添って日常的に出かけている。花見や外食、道の駅など遠出をする時は、リフト付き車輛を使用して外出している。また、家族も誘って参加してもらい、家族と一緒に過ごす時間を大切にしている。	

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと、お金を持っていただいている方があります。隣のスーパーで好みのものを購入し利用者間で分け合ったりされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、スタッフが取り次いでいます。他者に気を使われることのないよう事務所で話していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには手作りカレンダー・壁には利用者様の手作りの季節の折り紙を掲示し、季節感を出し、居心地の良い空間になる様努力している。	リビングのテーブルなどに花を飾って季節を楽しめるように工夫している。廊下の端にテーブルと椅子を置き、お茶を飲んだり、日向ぼっこや夕焼けを見たりして、リビングから離れて静かな環境を楽しめるように工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下にソファが置いてあり、ゆったりとくつろげるよう工夫している。気の合った利用者同士がおしゃべりしている光景が見受けられます。サンルームにも椅子が設置されていて、一人外の景色を眺めて過ごせる空間も設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅での使い慣れた馴染みのものを持参して頂くことも勧めている。个性的な家具など持ち込まれている方もあり、家族の写真を飾るなどされている。	入居時に自宅の環境と変わらないよう、使い慣れた物や好みのものを持参してもらうことの意味を説明している。机・家具・テレビ・家族写真・趣味の作品などを置いている。掃除は、声掛けをしながら一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には名札・花など目印になるものを掲示するなどしている。トイレも大きく分かりやすく表示して、迷うことのないよう配慮している。		